

《1日目》

扇沢から種池山荘までの間は、傾斜のある斜面だが、決してきついわけでもなく、気持ちよく汗をかける。種池山荘での休憩は見晴らしがよく、気持ちがいい。爺が岳は、緩やかな尾根で特に困難な場面もない。ただし、種池山荘では20度だった気温が、爺が岳の稜線に出た瞬間約8~10度の気温が下がり、急いで防寒対策をとった。冷池山荘の人曰く、昨夜は氷ができるほど寒かったです・・・とのことだったが、日が暮れてから実感した。テントの中で3度。都会の真夏から、急にこの気温を耐えるにはいささか厳しさがある。テント場から山小屋までは急な斜面を約10分歩くので、トイレや給水などの用があるときは、寝る前に済ましておきたい。

《2日目》

昨夜、テントを設営してから雨が降り続けていたが、目を覚めてからテントの空気穴から空を除くと星がたくさん光っている。快晴、そのもの。立山や剣岳がくっきりと見える。稜線を歩きながら、徐々に光を浴びる剣岳の絶景を堪能する。鹿島槍ヶ岳までの稜線は、急な斜面があるものの、体力/危険度、共に問題なし。ただし、その先の道は崖の続き。日本3第キレットの一つということがよくわかる。鹿島槍ヶ岳の下山中に1m距離で大きめの落石が2つ落ちてきた。ルート調査不足で、ヘルメットを持参しなかったのを悔いた。五竜岳までの稜線は、まったく緊張を緩めない上、集中力が求められる。唐松岳を約1時間半残すところで体力と集中力の限界を感じつつ、雨と風が徐々に強くなり、ピバークも考えたが、水が500mlもなかったため、日が暮れるまで頑張ることに。無事に小屋に到着して安心したが、激混み状態でテントを張る場所がない。山を10~15分下山した登山道の脇に、岩だらけの凸凹に雨の中でテントを設営。全装備が濡れた上、斜面が凸凹なので、なかなかゆっくり休めない。連休は、唐松岳に来てはいけないと・・・痛感する。

《3日目》

何とか晴れてきたものの、昨夜の雨で、装備も道も濡れていて、不帰キレットに行けるテンションではなくなった。また、前日の体力消耗がひどかったため、白馬岳への道は断念し、八方へ下山を決心。下山中は、ずっと不帰キレット~白馬三山がくっきりと見えて、とても癒された。白馬岳に誘われている気がしたが、もう時間が厳しい。次回は白くなった白馬岳を登ると自分と約束し、下山の道を進んだ。八方のロープウェイから白馬駅までの間、いくつかの温泉はあったものの、時間が早いため、営業しておらず、そのまま帰宅の道へ！